

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部総合社会科学国際関係論分科

参加プログラム: イェールサマーセッション(YSS) 派遣先大学: イェール大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等)③.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他( )

派遣先大学の概要

アメリカのイェール大学。サマータームの授業を外部の学生にもオープンにしています。

参加した動機

将来海外の大学院に行くことを考えており、英語での授業を体験し慣れることのできる良い機会だと思ったからです。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)  
イェールから送られるメールをきちんとチェックする必要があります。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)  
必要な書類がイェールから届く前から、大使館のウェブサイトなどで申請のプロセスを確認し、準備できることは早めに始めるといいと思います。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)  
歯科は海外旅行保険に含まれていない場合が多いので留学前に歯医者に行っておく方がいいと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
海外旅行保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)  
10か月の交換留学直後だったので、夏学期に東大で授業を履修しておらず特に手続きは必要ありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)  
TOEFLiBT104。口語に慣れるためにドラマやニュースを日常的に聞いていました。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど  
早めにシラバスや課題などをオンラインにアップロードする教授もいるので、早めにチェックしておく方がいいと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)  
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- The U.S. strategy after Cold War  
- Film, Video, and American history  
(まだ単位認定申請はしていませんが、申請する予定です。)

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)  
- The U.S. strategy after Cold War  
授業は週2回で1回約3時間(半分講義、半分ディスカッション)。  
予習は毎回リーディングが課される。(1回6, 7本の論文。大量だったので、私は他の非ネイティブの学生達と分担して全ての論文の少なくとも概要は把握して授業にいくようにしていました。)  
課題は、他の授業に比べて多い方でした。リーディングに対するレスポンドペーパーを4本、ファイナルペーパー1本(一冊課題本を選んでそれについてレビュー)、プレゼン1回。

- Film, Video, and American History  
授業は週2回で1回4時間(講義と映画鑑賞とそれについてのディスカッション)。  
予習は毎回リーディングが論文2本ほど。  
課題は、ミッドタームが映画の一部分の分析、ファイナルペーパーは映画1本の分析。

④学習・研究面でのアドバイス  
課題が多く、勉強漬けの5週間となり鍛えられると思います。何か問題があればすぐに教授に相談することが大切だと思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等  
ネイティブと比較すればもちろん大きなハンデがありますが、サマーセッションは非ネイティブも多いですし恐れず発言することが大事だと思います。ライティングに関しては、有料のライティングチューター制度に申し込むことが出来るので、ペーパーを書く際に利用してもいいと思います。

生活について

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)  
イエールの寮に宿泊しました。ほとんどの人が2人部屋。約10人あたりにシャワーとトイレそれぞれ2、3つがありました。共用部分以外にはエアコンがないので初日に扇風機を買いました。
- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)  
非常に暑い日と秋のように涼しい日があるので、それに対応できる服装を用意すると思います。ニューヘブリンにはバスもありますが、大きい町ではないのでほとんど徒歩で移動可能でした。ただ、夜は治安が悪いのでイエールのバスを利用することを勧められました。クレジットカードがどこでも使えます。私はシティバンクの口座ももっていたのでそれを使って現金を引き出せました。
- ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)  
夜は治安が悪いといわれているので夜の一人歩きはやめたほうがいいようです。勉強が忙しくストレスがたまりましたが、週末はどこかに出かけて気分転換をしました。食堂の食事は比較的好いしかったです。塩分も糖分も多いのか太ってしまいました。気をつけて下さい。
- ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)  
約1,000米ドル(授業料5,940ドル、宿泊費・食費2,604ドル、航空賃・交通費等15、6万円)
- ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)  
Friends of Today から4,000米ドルの奨学金を頂きました。
- ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)  
毎日、何かのアクティビティ(スポーツ、ゲーム、映画等)が用意されていました。週末は日帰り旅行や野球観戦などのイベントが用意されていました。このようなイベントを上手く利用して楽しむと思います。

#### 派遣先大学の環境について

- ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)  
寮にはイエールの大学生がカウンセラーとして住んでおり、生活面でのサポートをしてくれました。学習面では、インターナショナルスチューデント向けの有料のライティングチューターに申し込むことができました。
- ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)  
図書館、ジム、PCなど、イエールの学生が使用できる施設のほとんどを使用できます。食事については、一日三食分が料金に含まれており、寮の食堂で食べることができます。

#### プログラムを振り返って

- ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
- ・大量のリーディングや授業内のディスカッションなど、慣れないことに取り組むことができ、アメリカの大学の授業を体験し、慣れるには良い機会だと思います。
  - ・語学面でハンデがあるなかで、なんとか課題をこなし授業の討議にも参加していくことが必要なので、根気と勇気が少なからず養われたかと思います。また、語学力に不安があるからこそ、発言の内容や理論性で授業に貢献する努力をすることができました。
  - ・エッセイを書いたりプレゼンをしたりという課題が多く、その課題に対しては教授が一つ一つコメントをつける場合が多いので、アウトプットの能力が向上したかと思います。
  - ・映画からアメリカ史をみるという授業をとり、これは私の専門とは違いますが、今までに考えたことのなかった視点を得ることが出来ました。このように自分の専門とは異なる授業を受講すれば、リベラルアーツ教育の面白さを感じることができると思います。
- ②参加後の予定  
大学にはあと1年半在籍する予定です。卒業後は就職をして何年か働いた後海外の大学院に進学できたらと考えています。
- ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス  
短期集中型で大変なコースではありますが、アメリカの大学の授業を体験したいという方にはお勧めです。

#### その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物  
イエールサマーセッションのウェブサイトと送られてくるメールに必要なことが記載されています。
- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。